

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住 8 - 3 - 3 - 201 電話 & FAX (3 8 0 7) 4 8 1 1

携帯メール torigaihideo@ezweb



防災計画の見直し提案

区議会定例会で質問に立つ

6 月 22 日から始まった区議会定例会。私は自民党を代表して質問に立ちました。3 月 11 日の大震災後の原発事故の影響で現在、荒川区も節電対策に取り組んでいます。そんな影響で議会も早めのクールビズ対策が行われており、議場でも初めてワイシャツ姿での参加する議員も多く目立ちました。私は区長に対し荒



川区の抱える課題の内、7 点を 1 時間に渡り質問しました。荒川区は汐入地区のように総合危険度 1 で大都市の中でも最も安全な地域もあれば、危険度 5 の地域も数か所みられる地区もあり、私は全体的な防災の観点で質問しました。

問 防災計画や職員の初動体制の見直し、聞き取りにくい屋外スピーカーの改善など解決する必要がある。見解を伺う。 答 今年末までに住民の避難誘導や飲料水・備蓄の見直し。帰宅困難者の対応など見直す。問 - 汐入・瑞光橋公園にある災害用の船着き場を平時にはレインボウブリッジなどへ行く水上バスを活用し、災害時には水路を活用して、避難者の誘導や、物資の輸送に当てたらいかがか。 答 区としても観光振興の観点からも防災船着き場については東京都とも協力しながら積極的に展開を図っていく。問 - 今後開設予定の大型の町屋 7 丁目尾竹橋公園。西尾久 3 丁目の宮前公園の整備には防災機能を備える必要がある。見解を伺う。 答 非常物資の輸送や住民の避難場所としての防災機能が備わった公園とする。【2 面に続く】

汐入小学校・第二幼稚園の芝生化を提案

問 汐入地区は川からの風の吹く日が多く、学校や幼稚園から舞う砂ほこりが隣の住宅まで飛び迷惑をかけている。芝生にするなど対策をとる必要があるのではないか、見解を伺う。 答 とりあえずはスプリングクーラー等により散水の徹底を図りたい、さらに芝生の養生や管理などを検証し、汐入小や幼稚園の芝生化を整備してまいりたい。

保育所待機児 0 作戦提案

問 来年の4月には150人規模の保育所が南千住に開園するなど、待機児解消に向けて効果を上げている。保護者の多数は認可保育所に入ることを望んでいるが、当面は両親がフルタイムで働いている指数20の家庭だけは認可保育所に入れるよう目標を掲げ、その他は認証・保育ママ制度を組み合わせ、荒川区の保育待機児0にすべき、見解を伺う。 答 提案の趣旨に沿って実現していきたい【参考 保育園児1人にかかる経費は月40~50万円】

放射線量測定結果発表される・荒川区分

6月16日、東京都健康安全研究センターは都内及び荒川区の放射線量測定結果を公表しました。これは23区区長会(会長・西川荒川区長)の要請により行われたものです。地表1メートルでは0.08。地表5センチでは0.10【毎時マイクロシーベルト】で胸部レントゲン撮影1回分より低い値で健康には問題ないとのことですが、今後も定期的に公表していくとのこと。放射線量測定については区の職員では測定できず、専門家に依頼しなくてはなりません。合わせて、測定場所や使用機器、測定方法により大きく値が異なることがあり、極めて科学的に行う必要があります。その為、荒川区は都の専門家の測定に依頼しています。同時に住民も一部のマスコミ報道に踊らされることなく、冷静な判断と行動が求められます。

家具類転倒防止金具設置補助 7月開始

6月24日に開催された「総務・企画委員会」で審査が行われ、可決されました。7月4日の本会議に上程され、7月に受付開始となります。対象家庭は障害者のいる家族又は65歳以上の家族。受け付け開始は7月となります。1万円を上限に補助します。問い合わせは21日から区役所・防災課3802-3111。7月21日号の荒川区報を読んでください。

【汐入小・東小校歌作詞、詩人】【汐入タワー作者芸大教授】

谷川俊太郎【公開対談】川俣 正

7月2日(土) 16時30分 汐入タワー前

現代の著名な詩人と、パリに本拠地を置き現代アートを作り上げる美術家が、汐入タワーとスカイツリーをテーマに話し合う集いが開催されます。時間等は下記に掲載しましたが是非ご参加ください。

時間 午後4時30分～6時

会場は汐入タワー前 雨天時は汐入小学校

23区初脳ドック(MRI)検診助成始まる

23区の中で荒川区民の平均寿命が短い(3~4歳)。大きな原因の一つに55歳から65歳の中高年の死亡が高くなっています。特に脳疾患・がんによる死亡が多く、2年前から自民党はCTやMRIなどにも助成をし、早期発見に努めることが脳疾患の予防にもなる、との主張をしてきましたが、この度、下記のように検診助成が始まることとなります。詳しくは荒川区役所3802-3111高齢者福祉課。申請受付開始 7月1日 申請できる人 40歳以上で保険料を完納している方。脳ドック受診費用の2分の1、2万円が限度。

汐入公園噴水が再開・藤棚(木陰対策)は7月完成

福島原発事故後の節電対策の影響で、大きな電源を使用するとのことで休止していた汐入公園の噴水。利用者からは復活の声も上がっていました。前都議会議員・崎山知尚さんを通して東京都に要望をしていましたが、この度再開しました。ただし、時間は10時から4時までと1時間短縮されます。他の都立公園の噴水は休止しているところもある中での再開は利用者にとっては喜ばしいことです。又、噴水周りの「藤棚」設置については7月下旬に完成するとのことです。

区内特別養護老人ホームの申請と入所調整が変更します

1施設から複数申請可能で入所しやすくなります。7月1日の区報に掲載予定。問い合わせは高齢者福祉課3802-3111

人工河川「荒川放水路」自然との闘い 明治 43 年隅田川大洪水 政府が動く

前回のあらすじ

今から 120 年前、明治中頃の荒川区の周辺には常磐線や明治通り、都電荒川線や京成電車もなく工場と言えば、軍服を作っていた、現在のスポーツセンター周辺の「千住製絨所」【明治 12 年】位であり、荒川放水路も勿論ありませんでした。この放水路の開設の原因は、明治 43 年の大洪水で、この洪水をきっかけとして政府が動き始めます。



原案は現在の放水路を含め 5 案が検討された

洪水の被害は 80 万人 1,000 億円

明治 43 年の長雨は 1 か月以上に及び隅田川一帯兩岸の住宅地に大きな被害を与えました。浸水戸数 20 万戸・被害人員 80 万人・被害総額 1,000 億円。水が引けたのは 4 か月後の 12 月になってからとのことでした。この洪水をきっかけとして明治 44 年。政府が動き始め、臨時治水調査会・荒川改修計画を設置します。当初、放水路の原案は 5 通りありましたが（現在の環状 7 号線と同じルートなど）、最終的に現在の案に落ち着きます。工事期間は大正 2 年から昭和 5 年の 20 年間にわたり、工事概要として、川幅 500m × 22 キロ。荒川区の面積と同じ約 1,000 ヘクタール。工事費 3,000 億円という国家的大事業が始まります。この大工事の責任者に抜擢されたのが 36 歳の青山士（あきら）という青年技師です。工事に先駆け 1,300 戸の農家の移動が始まります。【次回へ続く】



い動のため丸太のコロにのせられた家 1300 戸、2500 人が住みなれた土地をはなれました。